

衆と宗教」などが、それぞれ独立の一節を設けて述べられている。つまり民衆の生活を支える農業以下諸産業の発達の概観と、民衆の魂を支える民衆の宗教の概観が、大きくとりあげられているのであって、本書の大きな特色をなしている。一方各時代の美術についても節を設け、県内所在の美術品について要領よい解説がなされている。そうした叙述はつとめて平易に、そして豊富にルビが付され、また写真も多く、読みやすさ、親しみやすさに心懸けられている。こうして編纂の意図はみごとに結実しているといえよう。近時、いわゆる地方史の編纂はまことにさかんなものがあるが、こうして、読み手を拡大し、より中広い読者に郷土の歴史を知らせる方法は、地方史編纂者の、常に念頭におくべきことであらう。そうした点で、本書の刊行は、単に岡山県の喜びであるばかりでなく、大きな意義をもつものである。本書は、僅か二ヶ年の編さん期間で成ったという。編纂者、協力者各位の造詣の深さはさることながら、月の輪古墳の発掘や『岡山県古文書集』の刊行など、郷土史研究への年期の深さと、加うるに執筆者のチームワークの良さがあつてのことと思

われる。この成果を十分に生かしてより完全な「岡山県史」を完成されて世に問われんことを期待するのは、私だけではないであらう。
 (A5判七七六頁 昭和三七年一〇月 日本文教出版社刊)
 (熱田 公)

会 報

五月例会

五月十一日(土) 午後一時

於 京都大学陳列館第二教室

亜欧の旅

樋口隆康

(スライド使用)

(要旨は本号学界動向同氏稿「第六回先史学原史学国際会議」参照)

亜欧史観の比較二題

井上智勇

(発表内容は論文として掲載予定)

六月例会

六月一日(土) 午後一時より

臨地講演 鎌倉時代の彫刻 毛利 久

(三十三間堂・京都博物館 見学)

七月例会

七月六日(土) 午後一時より

趙過の代田法について

米田賢次郎

漢の武帝が匈奴との戦闘の結果生じた、国家財政の窮乏と、人民の不安を除去するために、民力の涵養につとめ、田千秋を富民侯に、

趙過を搜粟都尉に任用して、代田法を施行したのには有名な史実である。そのため代田法に關しては、先学の秀れた研究も数多く發表されているが、代田法の史料は漢書食貨志に著せられたものが、殆んど唯一の史料で、關聯文獻に欠くことなどの理由で、必ずしも定説と稱しうるものがない状態にある。それ故私には、食貨志の文を詳細に考察して、技術面より、文章の面より、合理的な解釈をあたえようと試みた結果、大体的な結論に到達した。

(1) 代田法は古法であつて、趙過の新農法ではない。

(2) 趙過の犁は作条犁ではなく、有床の耕犁である。

(3) 代田法は畑地灌溉を前提とした農法である。

(4) 犁は何軒かに一つの割合で配布され、五頃とは犁一個に対する基準面積である。

(5) 平都令光が趙過に教えた方法とは、人数・所有面積の似たような農家をまとめて、一個の犁を共同使用するに便利に組織することではなかつたか。

(6) 綏田とは従來の作条犁を使用した条播の

田である。

(7) 崔寔のいう趙過の犁とは、この作条犁で代田法では下種器として使用されていた。

(8) 代田法に使用された犁は中原一帯で、すでに使用されていた。

(9) 趙過の代田法は、大鳥氏の云う如く、新しい農法や、器具の發明ではなく、現在使用されている各種の器具を適當に組合せて模範農場を作ることであつた。

(10) 華北畑作農業の犁として、一応の完成を見たのは、崔寔のいう遼東犁であり、趙過のそれは、發展途上のものであつた。(米田賢次郎)

インド・ネパールの写像 広地利明

一九六二年京大イラン・アフガニスタン・パキスタン學術調査隊に参加して、その帰途インド・ネパール兩國を訪れる機会をもつた。その折のスライドをもとに、主としてネパールの風物を中心に紹介した。

北東インドのダージリン・カリンボンの兩都市におけるヒンズー文化と非ヒンズー文化との接觸に興味を抱いて以來、ネパールでは

兩文化の交錯の状況をみて歩いた。

ネパールは、地域的に、タライと稱せられるインド平原部、カトマンズを含むヒマラヤ前山中の中間盆地群、そして高ヒマラヤの三地域に分かたれる。この三つの地帯は、民族的・文化的にも、土地制度においても著しい差異を示している。タライはインドアリアンのヒンズー的世界であり、不在地主の支配する集村地域である。そこはネパールというよりインドの延長である。中間盆地は、ヒマラヤ山間の少数民族とインドから到来したヒンズー教徒の混在する地域であつて、自作農の散村地域である。高ヒマラヤはチベット人の世界で牧畜と商業に基礎をおく。この三者は景観的にもきわめてきわ立つた類型を示している。中間盆地(ポカラ)で、簡単な農村調査を試みたが、インドと同じくヒンズー教徒の村とはいえ、カースト構造は直ちに經濟的地位と相関していないようである。それは不在・在村を問わず地主が存在しないことによるのであるが、インドとは異なつた村落のカースト構造は、興味問題あるを提供する。

ポカラからマルシャンディ谷を廻行し、谷に沿つて滲透するモンソーンのため、谷底は

亜熱帯性の植生に覆われていることを紹介した。これもネパールの植物分布が単に高度のみにもついでいないことのあらわれであろう。マルシャンデ谷源流部、マナスル西麓のビムタコーチに達し、そこにおける氷河地形を紹介した。ビムタコーチはネパールヒマラヤ中最も谷氷河の発達するところである。氷河はいずれも巨大なモレーンに覆われているが、サイドモレーンのみ著しく高く、氷河自体はモレーンのはるか下に横たわる。これらの点からみると、ヒマラヤ山中の谷氷河は衰えつつある化石化した氷河といえるようである。(応地利明)

「史林」投稿規定

- ◇「史林」の投稿規定は次の通りです。奮って御寄稿下さい。
- ◇資格 本会々員に限る。
- ◇原稿の長さ

- 研究論文 四百字詰五〇枚程度
- 研究ノート 四百字詰五〇枚以内

以上には四百字以内の要約と、英文要約(又は翻訳用要約)添付のこと。
 抜刷は二〇部贈呈します。

○資料紹介 随意

- 学界動向 四百字詰三〇枚以内
- 批判と反省 四百字詰三〇枚以内
- 書評 四百字詰二五枚以内
- 紹介 四百字詰三枚以内

◇送先 「史林」編集委員会 宛
 ◇なお、「史林」の論文掲載の順序は、いわゆる巻頭論文制を採用せず、日本史・東洋史・西洋史・地理学・考古学の順、各専攻の中では時代・地域順となっております(研究ノート以下もこれに準じる)。前以てお含みおき下さい。

新入会希望の方へ

新入会希望の方は、住所(「史林」送先)・氏名・専攻及び送本開始希望巻号を明記の上、会費(年間一、二〇〇円)を添えて直接当会宛お申込下さい。(但し図書館等公共機関は、会費後私の便があります。)その際、バックナンバーを併せてお申込下さっても結構です。なお御送金は、事故防止のためなるべく振替口座(京都五一五番史学研究会)を御利用下さい。

例会 予告

日時 十二月七日(土)午後一時より
 場所 京大史学科第二教室
 講師・演題
 漢代北辺のまもり

韓国の考古学

—— スライド使用 ——

永田英正
 有光教一

一九六三年八月二五日印刷
 一九六三年九月一日発行
 史 林 (第四六巻第五号) 定価二〇〇円

発行所 京都市左京区吉田本町
 京都市大学文学部内
 史 学 研 究 会

印刷所 理事 長 宮崎市定
 京都市下京区西七条御所ノ内中町五〇
 中村印刷株式会社